

2012年9月20日／浪宏友ビジネス縁起観塾

## 願と修行

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）「授学無学人記品」

### 1. 授学無学人記品の概要

- (1) 阿難と羅睺羅が授記されます。
- (2) 学・無学の二千人が授記されます。

### 2. 阿難、羅睺羅への授記

#### (1) 阿難

釈迦牟尼世尊の常随の侍者。

釈迦牟尼世尊が入滅されるまでの20年間、お側から離れることなくお世話をしました。

釈迦牟尼世尊の説法をもっとも多く聞き、すべて正確に記憶していたことから、多聞第一と言われていています。

#### (2) 羅睺羅

釈迦牟尼世尊が出家される前に、耶輸陀羅（やしゅたら）姫との間に設けた男子。

少年時代に父の弟子となって、人知れずこつこつと修行を重ねてきたので、密行第一と言われていています。

#### (3) 阿難・羅睺羅への授記

阿難と羅睺羅は釈迦牟尼世尊の十大弟子に数えられている方々です。

この二人は、十大弟子の中でも、もっとも遅く授記されましたが、ここには釈迦牟尼世尊の深い御心があったとされています。そのことについては、後ほどご説明します。

### 3. 学・無学への授記

#### (1) 学・無学とは

「学」というのは、有学ともいい、これからまだ学ぶべきものがたくさん残っている人を言います。いわば、見習い中のお弟子ととってもいいでしょう。

「無学」というのは、学ぶべき教えを学びつくし、もはや学ぶところのなくなった人のことで、一人前の声聞であるわけです。（庭野日敬著『新釈法華三部経5』p.115）

#### (2) 見習いの修行者まで授記された理由

学の人々の中には、おそらく十代の年少者もまじっていたこととおもわれます。そんな少年僧まで授記されることは、一見不思議なようですけれども、よく考えれば不思議でもなんでもありません。すべての人間はひとしく仏性をもっているのであり、その仏性を明らかに自覚さえすれば、すなわち仏になれるからです。（庭野日敬著『新釈法華三部経5』p.115）

#### 4. 阿難・羅睺羅が見習い少年と一緒に授記された理由

十大弟子のなかに入っている阿難・羅睺羅が見習い少年と一緒に授記されたのは、釈迦牟尼世尊が、身近な人の教化は難しいということを私たちに示そうとしたからにちがいないと、庭野日敬師は言います。

その意味では、釈迦牟尼世尊の養母である摩訶波闍波提(まかはじゃはだい)比丘尼と釈迦牟尼世尊の妻であった耶諭陀羅(やしゅたら)比丘尼が、八歳の龍女よりも後に授記されているのも、同じ趣旨であろうと思われます。

#### 5. 身近な人の教化は難しい

身近な人は、口先だけでみちびこうとしても、とうていできるものではありません。日常生活のじっさいの行ないによって感化するほかないのです。

その行ないも、りっぱなのはときたまにすぎず、ふだんはわがままな行ないや、みにくい行ないがおおいようでは、感化の実はあがらないのであって、行住座臥にいい手本を見せなければ、家族のものや、おなじ職場の人は、ついてくるものではありません。

(『法華三部経各品のあらましと要点』 p. 94～95)

#### 6. 学習と実践

##### (1) 釈迦牟尼世尊の修業と阿難の修業

ここに面白い経文があります。現代語訳で紹介します。

「もろもろの善男子よ、わたしと阿難とは、はるかな過去世の、空王仏という仏さまのみもとにおいて、同時に、仏の悟りを得たいという志を起こしたのであります。ところが、阿難は、できるだけ多くの教えを聞きたいとつねに願っておりましたが、わたしは聞いた教えを、いっしんに修業し、実践することにつとめたのであります。そういうちがいがありましたので、わたしのほうが早く仏の悟りにたっすることができたわけです。」(庭野日敬著『新釈法華三部経』 p. 143)

##### (2) 阿難と釈迦牟尼世尊のちがい

- ① 阿難と釈迦牟尼世尊は、同時に、仏の悟りを得たいという志を起こしました。
- ② 阿難は、できるだけ多くの教えを聞きたいと願いました。いわば学習主義の修行でした。
- ③ 釈迦牟尼世尊は、聞いた教えを実践することにつとめました。いわば実践主義の修行でした。
- ④ 釈迦牟尼世尊のほうが、はるかに早く仏の悟りにたっすることができました。
- ⑤ 阿難もこの後、学習した教えを用いて多くの菩薩を教化し、仏の悟りに達するのです。

## 7. 本願

### (1) 仏・菩薩の本願

〈本願〉というのは、仏・菩薩が過去世において、一切衆生を救おうとして立てられた誓願をいいます。たとえば、釈迦牟尼仏は五百の大願を、阿弥陀仏は四十八願を、薬師仏は十二願を立てられました。

### (2) 阿難の本願

釈迦牟尼世尊は、新発意（しんぼっち）の菩薩たちに向かって、阿難もまた、多くの菩薩たちを教化し、人格を完成して、仏の悟りにたっせしめようという本願を持っていると語ります。

これを聞いた新発意の菩薩たちは、自分たちも同じ本願を持っていたのに、すっかり忘れていたことに気づきます。

新発意の菩薩とは、仏の悟りを得ようという志を立てたばかりの菩薩です。

### (3) 私たちの本願

私たちも、同じ本願を持っているのですが、多くの人が忘れてしまっています。

この本願を、自分も早く思い出して心の中に確立し、人々にも早く思い出させてあげて、その人の本来の道を歩んでいただく努力をしたいと思います。

## 8. 願

### (1) 「願(がん)」の本来の意味

まず自分の理想を立て、その実現に対して自分の全生活をうちこんでいくことを、願と言います。(庭野日敬著『法華経の新しい解釈』p.234)

### (2) 総願

#### ① 共通の願

「総願」というのは、どんな人びとにも共通な願です。

仏教では、人間なら誰もがもつべき願を四つに分けて「四弘誓願」と言っています。

#### ② 四弘誓願

衆生無辺誓願度：衆生の数は無辺であろうとも、かならず一切を救おうと誓願する。

煩惱無数誓願断：煩惱の数は無数であろうとも、かならずすべてを断ち切ろうと誓願する。

法門無尽誓願学：仏の教えは無尽であろうとも、かならず学び尽くそうと誓願する。

仏道無上誓願成：仏の道は無上であろうとも、かならず到達しようとして誓願する。

#### ③ 総願の具体化

総願（四弘誓願）を実現するための実践・行動は、人それぞれの別願として具体化されます。

### (3) 別願

#### ① それぞれの願

「別願」というのは、その人の性格に応じ、才能に応じ、職業に応じた特別の願いです。  
自分は絵が上手だから、美しい絵を描くことによってこの世をすこしでも美しくしよう。  
自分は音楽が得意だから、音楽によって人の心を和やかにしよう。  
自分は農民だからすこしでもいい米や野菜をつくって世のためにつくそう。  
自分は商人だから、できるだけよい品をやすく提供して、お客さまの生活に役立てよう。  
—— みんな立派な別願です。 (『法華経の新しい解釈』 p. 235)

#### ② 総願と別願の関係

別願の中には総願が込められています。別願を実現する努力の精神は常に総願です。  
総願は、別願のなかで、具体的に推進されます。

## 9. 修業の要素

願を満たすためには、たゆみない修行が必要です。

修行には、学習・思索・実践の三つの要素が揃うことが必要です。

- ・ 学習：人から教えてもらい、書物を読んで学ぶ、人のしていることを観察して学ぶなど、どのような方法でもいいのですが、まず、正しく学びます。
- ・ 思索：学んだことを自分で行うにはどのようにすれば良いのか、具体的、实际的に考えます。
- ・ 実践：学習し、思索したことを、実際に行います。

【参考】十大弟子

名前	特徴	備考	授記された品
舍利弗（しゃりほつ）	智慧第一	舍利弗が五比丘の一人阿説示（あせつじ）を見、その話を聞いて釈尊の尊さを知り、目犍連と連れ立って釈尊の弟子となる。	譬諭品
目犍連（もっけんれん）	神通力第一		授記品
摩訶迦葉（まかかしょう）	頭陀第一	教団の最長老。	
須菩提（しゅぼだい）	解空第一		
摩訶迦旃延（まかかせんねん）	論議第一		
富楼那（ふるな）	説法第一	弥多羅尼の子。	
阿那律（あなりつ）	天眼第一		五百弟子受記品 と思われる
優婆離（うぱり）	持戒第一	もとカピラバストの理髪師。	
阿難（あなん）	多聞第一	長年、釈尊の身の回りのお世話をした。	授学無学人記品
羅睺羅（らごら）	密行第一	釈迦牟尼世尊の一人子。	